

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	キッズハウスなごみ家 土生			
○保護者評価実施期間	2024年 4月 1日 ～ 2025年 3月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数)	11
○従業者評価実施期間	2024年 4月 1日 ～ 2025年 3月 31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 5月 1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	SSTに特化した形式の授業を取り入れている	子供たちに飽きがこないように、毎日違うトレーニング内容を取り入れるようにしている	今後、子供たちに充実した授業を受けていただくためにもスタッフの研修の頻度を増やしていくように取組んでいきたい
2	子供たちが将来、一人の社会人として、生活することが出来るための就労準備型の授業を行っている	年齢に関係なく全員と一緒に授業を受けることができる内容（一般教養、一般常識等）を組立てて実施している	障がい者雇用を行っている企業を訪問し、そこで行っている仕事内容を参考にし、それらを授業の模擬訓練等に反映し、一つでも多くのスキルをつけていただき、選択肢の幅を広げていてもらいたいと考える
3	共働きの多い保護者様の為に、学校等が休みの場合は、ご家族の希望に沿った時間帯での受け入れ体制をとるようにしている	祝日や長期休み等で事業所で長時間過ごす利用児には、療育だけに力を入れるのではなく、子供たちにとっての休息の時間も設けることによりメリハリの時間を作るようにしている	保護者が安心安全に感じていただけるように、今以上の内部研修を行っていくようにする

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	十分なスペースがなかなか確保できない	児童発達支援の子供たちと、小学校以上の子供たちが療育するうでは、限られたサービス内容になってしまう時がある	時間差での対応や、スペースのレイアウトの見直し、授業内容等の療育のやり方を見直しなどを行う
2	子供たちの落ち着く場所がない	子供たちが情緒不安定等になった時に、気持ちを落ち着かせる場所が確保できないときがある	スペースのレイアウトの変更等の見直しを再度行うようにして確保できるように努めていく
3			